第６回未来へつなぐ行政サービスのあり方検討会　議事要旨

日時：令和８年 10 月 16 日（金）14:30～16:20
場所：県庁４階大会議室
出席委員（座長以外は五十音順）
　辻座長、井領委員（オンライン）、大西委員、小川委員、田中委員、東出委員、
　藤井委員、舟橋委員（オンライン）、米井委員（オンライン）　※加藤委員、難波委員は欠席

**１．知事あいさつ**

・人口減少が進み、行政サービスの担い手、あるいは地域を支える人々が減少していく中で、限られた人材、限られた予算で持続可能な行政サービスのあり方を県全体で考えていく必要がある。
・こうした中で７月に鳥取県で全国知事会が開催され、その中でも人口減少社会において地域の機能や必要な行政サービスを無理なく持続できる形へと見直していく、「スマートシュリンク（賢い縮小）」といった視点も取り入れて効率的な行政サービスの提供体制へ再構築する必要性について議論を交わした。全国共通・共有の課題であると言え、その際にはデジタル技術の活用、自治体間の広域連携、さらに官民連携が求められていると考えている。
・本県においても、こうした考え方を具体的な取組みに結びつけていくことが重要と考えている。これまでいただいたご意見も踏まえて、モデル的な取組みに着手しているところであり、今後、実践から得られた知見や課題を検討に活かし、地域に合った持続可能な行政サービスのあり方を探ってまいりたい。
・本日は現在着手しているインフラマネジメントワーキンググループなど、今年度の取組みの進捗報告とともに、県有施設の現状と課題について事務局から説明させていただく。これまで同様、行政だけでなく、民間も含めたオール富山の視点で、そして未来志向で、県全体の行政サービスのあり方について、忌憚のないご意見をいただきたい。

**２．議事説明及び意見交換**

事務局
**（１）令和８年度における取組みについて**、資料１、２―１、２－２、２－３に基づき事務局より説明

藤井委員
・資料２－１の３ページ目の表について、健全性と重要性から見た判断基準は非常に分かりやすいものになっていると思う。市民や県民の皆さんに説明する時に、こういう基準でやっていると分かりやすく示せるのは非常に助かると思った。県や市町村の橋梁をこういった判断基準に当てはめて、実際の現実をしっかりと見ていただくということも大切なのではないかと思う。
・魚津市との群マネの試行についても本当に分かりやすい取組みである。すぐにできるものを、その時期が来れば間髪入れずに横展開していくということをオール富山でやっていければ良いと感じた。
・その他の意見として、氷見市での水害にあたり、災害に対して備えてはいたが、こんなにすぐに活躍すると思っていなかった。普段からの議論やシミュレーションを実際に実証実験的にやってみるというのは非常に大事である、ということを改めて感じた事象であった。

事務局
・橋梁の健全性と重要性という分け方について、健全性は国から橋梁点検の仕様が出ているため、今の段階でも判断することができるが、重要性をどうやって最終的に示していくのかというところが、これからの課題であると考えている。
・群マネについて、他の市町村に対しどんなことが考えられるかを投げかけているところである。できること、また、新しい取組みも含めて検討していきたい。
・農業関係について、ご指摘のとおり、準備・発足を進めてきた中で、このようなタイミングで記録的大雨による災害が起こるとは思わなかった。そういう意味では昨年度から本検討会でいろいろ議論させていただいたことを改めて感謝したい。今後、いつ、どこで、どういうことになるか分からないのが災害対応であり、普段から意識しながら日々の業務に当たっていきたいと考えている。

小川委員

・９月に入ってから長雨の影響があったが、何とか稲刈りも無事に終わった。氷見市での災害がとても辛いことになって、田んぼも水浸しで今後どうなるのかと気にかけていた。そんな中、氷見市役所にサテライトデスクが設置されたことにより、通常よりも多い体制で相談業務に対応され、農家にとってはすごく心強かったと思う。被災して気力、体力も尽きている中、市庁舎に県職員もいて、一回で相談が終わるというのは大変助かったと思う。
・今後、このような大雨や大雪に対し、農家自身もどのように対処するかということを考えていかなければならないが、今後も協力をお願いしたい。

東出委員

・氷見市サテライトデスクについて、本当に着手可能なものからやってみるということを、実際に行動に移した結果、多くの人の手助けになった、いい成果、事例となって良かった。
・資料２－２の進捗報告で来訪者数の数が記載されているが、数字をきちんと取って提示されることで、実際にどれだけ多くの人が助けられたのか、ということが分かることから、非常に良いなと思った。今いろいろ着手、チャレンジをしていく最中だと思うが、このように数字で出してもらえるのはありがたいなと感じた。
・インフラのあり方検討委員会ワーキンググループの委員を務めており、将来のインフラについていろんな議論をしているところ。これから優先順位を決めて、メリハリをつけて維持管理をしていかざるを得ないという点は皆さん同意しており、さらに自分ごと化という点で、県民の皆さん一人一人が社会インフラを自分たちのものだという意識を持つ契機として、自分ごと化のイベントを開催するということも、実際に行動にも移されているなと感じている。
・この前、弊社に県広報が来て、県の土木職員が前面に出て、県の橋梁やインフラに関しての情報が掲載されていたが、すごく良いなと思った。幅広く県民の皆さんに、こういう課題があるということをお知らせするということがすごく重要だなと思った。
・県広報はどのくらいの部数をどのように配布しているのか。また、今回のインフラ自分ごと化の体験教室の参加者数を分かる範囲で教えてほしい。多くの方々に参加してもらえたらと思うので、広報の仕方とかを教えてもらいたいと思う。
・インフラマネジメントワーキンググループでのもう一つの大きな課題として出たのが人材確保。この社会インフラに関する維持管理や新設とかいろいろあるが、その人材確保と育成という大きな課題もある。そこで、先ほど話をした広報がすごく重要ではないか、と思ったので、発信をさらに強化していく必要があるのでは、と感じている。
・厚生業務の DX も素晴らしいなと思った。スモールスタートでまず始めるということで、スタート地点に立ったところなのかな、と思う。一つ気になったのが、職員の皆さんでやっていくという姿勢が将来的にもすごく必要かなと思うが、このデジタルリテラシーを上げるためにどのようなことを考えて取り組んでいるのか、教育とか、そういった点を教えてほしい。

事務局

・農業の関係で小川委員からも指摘ありましたとおり、9 月は長雨の時期であった。サテライトデスクを開設し、相談体制を強化したところ、今回の大雨災害を受け冠水した水田での収穫作業の注意点や被災した農機・トラクターに対する支援の情報など、技術面を中心としたいろいろな相談を行い、大変満足いただいたところである。
・東出委員からいただいた相談件数の集計について、皆さんにとってこれからもどういった形がより良い行政サービスになるのか、それが効率的にしっかりと届けられているか、というところを中心に、報告に向けて検証・議論を進めていきたいと考えている。
・県広報について、約 30 万部発行しており、新聞朝刊の折込みにより各家庭へお届けしている。また、県庁などの県各施設、市町村庁、図書館、ショッピングセンターや駅などで配付している。
・インフラの自分ごと化の体験教室の申込状況について、申込人数は 80 名定員のところ 109 名あり、残念ながら抽選で漏れた方もいる。何をきっかけで応募したかも確認したところ、小学校と親子の体験教室なので県内全ての小学校に案内を出しているが、その案内を見てという方、また県の公式 SNS や県のホームページを見たという方、知人・友人からの紹介してもらったという方、市町村から案内があったという方など、いろいろな分野・媒体を通じて応募いただいたところである。
・デジタルリテラシーについて、厚生部としてまずは自分で使ってみることが大事と思っている。AI につい

ても、著作権やハルシネーションの問題があり、いろいろ課題があるが、それは使った後にそういった課題を改めて学ぶ場を設けていけば良いのではないかと思う。まずは使って、そこからみんなで学んで深掘りしていく。ここもスモールスタートでやっていけたらと思っている。

米井委員

・東出委員から発言のあった自分ごと化企画について、今後教育の分野等と協力していって、応募した子供たちが全員参加できるようになれば良いと思う。私が小学生の時に四季防災館に全員行って、地震体験とかをして、自分の身をもって地震の怖さとかを学ぶ授業があったので、それとすごく近いような形でこうやって行政が動くことで、こういうふうに守られているんだよ、ということを学ぶ機会を作っても良いのではないかと思った。
・また、厚生業務 DX について、だんだん紙を使わなくなって作業が簡単になっていくということはすごく良いことだなと思っており、県側の体制は整っていくかもしれないが、行政サービスの受け手、例えば医療機関とかの対応が不十分だったらうまく回りづらいのかなと思うので、そこは県の行政の範囲外かもしれないが、支援などで対応してもらえれば良いと思う。

事務局

・体験教室を全小学校に案内したが、先ほど東出委員からもあったとおり、人材の確保という意味でも、若い世代からこういう職業がある、こういう仕事がある、ということをしっかり認識してもらうのが大事だと思っている。特に小学生、中学生といった、これから将来を考えていく世代。それと、その親御さんにも職業について十分な理解をいただくことが大事かなと考えている。また、教育委員会も含め、そういった現場と連携しながらやっていきたいと思っている。
・厚生業務 DX で指摘いただいた内容は、まさしくそのとおりであり、事業者や医療機関の現場でのデジタル化というのも一緒に進んでいくというのが必要な条件だろうと思っている。
・医療機関であれば、例えば電子カルテは国や県の支援を受けて導入が進んでいるが、まだ紙のカルテもかなり残っている状況。これは介護施設なども同じであるが、これも一度に進むものではないので、キャッチボールをしながら、少しずつ進めていくことになると考えている。

米井委員

・研究の一環で、介護事業所や病院にお邪魔することが何度かあり、現場の方で PC があっても使えない方とかもいらっしゃったので、もしかしたら教える側の人材も一緒に確保していかなければいけないのでは、と思って質問したところである。

井領委員

・厚生業務 DX についてスモールスタートでどんどん進めていくということが資料として出てきたので、ようやく来たぞと思っているところであるが、最近 AI の性能が加速度的に上がっており、24 時間稼働できるようになったりとか、高速なモデルの原価がものすごく安くなったりとかで、DX の段階では集計というところに時間がかかっていたが、そのコストがほとんどかからなくなってきた。
・数年前はデジタルをみんなでやろうとか、スモールスタートでやろうという段階だったのが、使いこなす必要がなくなった側面がある。そうなってくると、橋梁データの収集や橋の交通量情報といったデータさえあれば何とかなる部分も出てきた。
・なので今まではスモールスタートしようという話がメインだったが、これからはデータ収集しよう、という段階になって、そこが次のアクションになるのではないかと思う。引き続きスモールスタートを頑張っていきながら、私としてはデータを集めようとか、そのデータはどうなっているのか、ということを後押ししていこうと思っている。
・もう一点触れざるを得ないのがセキュリティの問題。最近毎日ニュースで散々言われており、皆さんも懸念や気になることも当然あると思う。このことについて二つ分けなければいけないと思っている。
一つ目は生成 AI で学習されているのでは、とかシステムが攻撃されるのでは、との懸念だが、ほとんどはヒューマンオペレーションミスである。パスワードを使いまわしていたり、レガシーなシステムだったり、自前でサーバーを立てているみたいなこと。こういったところから攻撃というのはやはりあるので、改めて自前でシステムを持つのではなくクラウドサービスや大手のサーバーにお願いをするとか、パスワードを使いまわししないとか、マイクロソフトを使っているので認証認可はエントラ ID といった製品を使うとか、当たり前のことをしっかりとやっていくということが大事。

もう一つは専門家やコンサルタントを入れるなどによってセキュリティに関する専門人材を含めていくこと。素人ではどうしようもない問題があるのも事実なので、投資としての意思決定が必要なのではないかと思う。

事務局

・データのご指摘についてそのとおりであり、デジタルの作業をしていく中で大量のデータを処理することとなる。そこをAIでの分析などで施策に繋がっていくような提案も十分出てくる可能性があると思う。まずは作業から入るのだが、その先にデータの活用というのがあると思っている。
・また、データの活用ということではないが、実際の作業の中で、例えば介護報酬の算定については非常に詳細な大量の文書を調べた上で、問合せに対して答えていくという仕事がある。これは本当に大変な作業であるが、ラグで読んでAIに返答させるというようなことができないか、ということで着手しているところである。このように膨大なデータを活用していくという視点を持っていきたいと思う。
・セキュリティについて、お話のあったとおりと思っている。特に電子申請などについて、既往の県の電子申請は強力なセキュリティに守られたシステムがあり、そういったものを基本的には使うことを念頭にしながら十分留意して進めていきたいと考えている。

大西委員

・インフラ自分ごと化のイベントで、お仕事体験で職業としても紹介したいという意図もあるということで、私も子どもがおり、富山県教育委員の仕事もしていることもあり、14歳の挑戦で職業体験をするときに地元の商店や工場には行けても、インフラの現場のようなお仕事を子供たちが知ったり触れたり見たりということが少ないので、貴重な機会になって良いなと思った。また、そういうことを考えると、まだまだ14歳の挑戦には触れていない職業とかがたくさんあるなということも思った。
・厚生業務DXについて、厚生部長から説明があったが、非常に多忙な部署で、根拠法が異なる医療や介護とか、福祉や健康、生活衛生、薬事とか、非常に多岐にわたる業務を取り扱っており、DXに取り掛かるのが順調にいかない分野であるということもお聞きした。
DXに取り掛かることによる4つの向上という効果が見られ、その一つに県民サービスの向上というのがあるが、私たち県民から見るとここに強く結びついてほしいなと感じた。
・厚生部が担当している分野、必要な介護や医療、福祉といった支援に繋がりやすくなったとか、その支援が分かりやすくなったとか、そういった結果が出るような、それがDXがもたらす成果になってほしいと思う。
・以前も少し触れたが、いくつかの分野、医療や介護、障害、困窮といったいろいろな分野を横断するような問題に対し、今後どのように考えていかなければいけないのか。分野を横断すると同時に県と市町村、あるいは広域連合同士での連携も必要になってくると思う。それぞれのDX化がどこまでいっているのかとか、井領委員が以前触れていたと思うが、それぞれの分野でシステムが出来上がってしまっていて、それぞれの相互性がすごく難しいとか、それを私たちは常日頃感じているのだが、そこに横串を刺すのは何なのか、AIなのか、あるいはジェネラリストといった職員になっていくのか、職員の教育になっていくのか、というところも今後見えてくるのではないかと思っており、その辺りも考えていただきたいと思う。

田中委員

・厚生業務DXについて、資料２－３の2ページ目にある4つの向上というところについて、生産性とかエンゲージメントとか県民サービスの向上、最後に危機管理能力の向上とあるが、これは厚生業務だけでなく県の他のいろいろな業務についても求められている指標だと思う。
・厚生部の業務が非常に紙が多いとか、大西委員の発言のとおりいろいろなシステムの相互の連関性なども確保していかなければいけないとか課題が多いと思うが、こういったものを一つ一つ厚生部の中でプロジェクトチームを組んで対応しているのか、その辺が少し気になったところ。そういったことを通じて一つ一つ実現されていくというのは非常に大事なことであると思う。
・もう一つは厚生業務だけでなく、他の業務についてもこういう事例を踏まえて横展開をして、DX化を着実に進めていってほしいと思った。

事務局

・県民サービスの向上に係ること、まさしくそれが大きな目的である。表面上、作業の効率化に見えるが、日々の業務が作業に追われるのではなく、そこで考える時間を作っていくこと。そうすることで工夫や質

や、今よりどうやったら良くなるだろう、素地がそこで出てくるのではないかと思う。また、それが職員のエンゲージメントにもつながっていくのではないかということで、根底には県民サービスが念頭にあって、資料のとおり示したところである。
・それから、いろいろな分野ということについてはまさしくご意見のとおりで、おそらく我々がやっている同じような業務を、市町村あるいは広域連合でやっていることが少なからずあるのではないかと思っている。それをいろいろな機会を通じて、できるだけ横展開をしてまいりたいと思っている。
・一方でスモールスタートでやっていくというのと、いろいろなものを大きくやるという二つの課題があるが、どうしても間口を広げてしまうと、システムが巨大になってしまって、結局にっちもさっちもいかないという例が行政に限らず民間でもたくさんある。そのため、まずはスモールスタートから、というのはそういうところを勘案しており、効果が出ているところから始めて、徐々に大きくしていきたいという意図である。
・それから４つの向上について県の他の業務でも同様というのはご意見のとおりである。ここで示したのは、ややもするとデジタル化あるいはDXというのは、デジタルのためのデジタル、とにかくよく分からないがデジタル化しよう、というようロジックになって、なかなか現場のやる気が起こらないということが少なからずある。そのため、一番最初に何を目的にするのかというのを明示した上で、デジタルはあくまで手段であるということを示すために掲げたものである。ご指摘があったとおり、これは他の分野でも全く同じであり、庁内において同じようなことで悩んでいる部局もあると思うのでデジタル化推進室とも連携して、可能な限り横展開に努めてまいりたいと考えている。

大西委員
・先ほど言い漏らしてしまったが、デジタル化によって支援から取り残されてしまうような人、デジタル弱者のような存在を出ないようにするという配慮も必要だと思っている。
・例えば資料の検討例にもあるが、私の普段の業務で、富山市保健所に一年に１回指定難病の特定医療費受給者証を申請しに行かなければならない方を担当している。病で外出も大変な方が、一年に１回、医療機関に診断書をもらいに行って、そして保健所に持っていくというのは本当に大変である。これをデジタル化で電子申請ができるようになればとても楽になると思う。
・また、介護保険の申請で二号被保険者、40歳から64歳までの２号被保険者が介護保険の申請をしようとすると、医療保険証情報を紙で添付して行政に出さなければいけない。今、紙の保険証はなくなっているので、保険証情報をマイナポータルから出力して紙に印刷して提出してください、と言われる。今までそのように説明をしても紙で持ってこられた人はいない。40歳から64歳の本人であるならできるのでは？とか、本人のきょうだい、あるいは配偶者、お子さん、若い方々が周りにいるのにやっぱりできない、というようにこういった取り扱いが上手にできないという人は多いな、と常日頃感じているので、まだまだそういうところについては、エッセンシャルワーカー的な働きがいるのではないか、と思っている。

辻座長
・社会保障関係の事務は全ての人に開かれていなければダメということで、今でもベースがアナログなことが多いため、どうしてもデジタルを混ぜてもなかなかうまく効果的にできない。
・デジタルで完結すれば良くなるが、そこまではかなり時間もかかるので、どうやっていけば良いのかというのは非常に大きい課題である。是非、職場の中の効率性もあるが、対住民・対関係団体との関係も踏まえて着実に進めていただきたいなと思う。
・あわせて、AIに絡むセキュリティ問題について、今回の攻撃にさらされている中で今のところ自治体関係で大きな被害・トラブルはない。この一番大きい理由は社会保障情報や税情報やマイナンバー情報は直接インターネットにさらされておらず、LG-WANの中だけで基本的に完結しており、関係システムもある意味では非常に強固、ある意味では使いづらいため、そう簡単にアクセスできないように作っていることの裏返しでもある。
・そのため、セキュリティという意味では、少なくとも今のところは良いが、逆に言うとそのためにいろいろ横で情報を利活用するのに制限がかかっているというのもある。便利にはしたいけど、セキュリティも重要だということ、今後これをどうやって活用していけば良いのか、これが一つの団体の中から他の団体や民間の団体も含めて、ここのところが全国的にもローカルでも改めて問われるのではないかと思った。

事務局
**（２）県有施設等に関する現状と課題について**、資料３に基づき事務局より説明

辻座長
・議題１も含め舟橋委員からご意見いただきたい。

舟橋委員
・インフラの自分ごと化企画について、果たしてこれは県庁がやることなのかなと思った。大西委員のお話にもあったが 14 歳の挑戦も長くやっており、現場では受け入れ先を探すのも苦労している。次世代に土木という仕事は夢があるよということを伝えるために、中学生向けと保護者向けにやるのは良いのではと思う。
・立山町は福祉事務所がないため、生活保護の申請については町で確認して中部厚生センターに上げていくのだが、手書きベースで大変多くの資料を用意してもらって、そしてそれを厚生センターの職員が読み込みなり、面接なりを経て決定するわけだが、本当に大変な作業だと思って頭が下がる思いである。
そうした中で厚生部では水道を所管している。国において水道は国交省の所管になっており、基本的にはハード事業であることから、是非厚生部の所管から水道を外せば良いなと思っている。
・生活環境文化部が所管する文化ホールはまさに文化だから良いと思うが、逆に生活環境文化部で所管している地籍調査については、これも国交省の所管になっている。まちづくりにも、または防災にも絡んでくる案件でもあるので、生活環境文化部の所管というのはいかがなものかと思っている。
・最後に文化ホールの話について、前知事時代の公約の一つで新川文化ホールに児童館ができる、愛称が「にこっちゃ」に決まり良い名前だなと思うが、あの場所で大型遊具が中学生以下無料と言っても、立山町も含め県東部の市町村の利用者も運転ができる保護者がいなければアクセスできない。利用される多くの方々も、あれが県の施設なのか魚津市の施設なのか分からないと思う。来年オープンなのだろうが、それが県のやる仕事なのかどうなのかと思う。
・ホールを作る場合は利用者がどうやってそこに行くのかということも考えたうえで、作るなり廃止するなりを考えたほうが良いなと思った。

事務局
・まさに目指すところは、県民の皆さん、市民、町民、村民の皆さんのためにどういう行政サービスのあり方がふさわしいかということのため、担当部局とも議論しながら検討を進めていきたいと考えている。
・新川文化ホールのお話もあったが、どうやってそこに行くのかや、どういった利用がされるのかということをしっかり考えて作っていくということが重要である、というご指摘だと受け止めたいと思う。
・我々もこれからあるべき施設のあり方を考えていく中で、そういった視点を大切にしながら、どういうものが最適配置なのか、また、県と市町村、民間も含めてどういった役割分担が適切なのかをしっかり議論した上で考えていくことが重要であると認識している。引き続きよろしくお願いしたい。

田中委員
・公共施設等総合管理方針の改訂に合わせて、今回数値目標も入れられるということで大変良い流れだと思っている。
・県有施設にもいろいろな施設があると思うが、今回は文化施設を対象に少し踏み込んで考えていくということで、これもスモールスタートということで是非進めていけば良いのではと感じた。
・資料３の文化ホールの立地の図、県全体の図と富山市中心部の図を見ると、やはり県の施設と市町村の施設で結構重複している部分が多いのは富山市の中心部であるなと、改めて思うところである。今後こういった機能の再配置を考えるにあたって、県と市町村がしっかりと連携をして、まさに官官連携をして進めていくことが非常に大事になってくると思うので、その辺をしっかりやっていただければと思った。
・特に利用実態について、県の施設ではないところは分かりづらいところもあると思うので、そこはしっかり市町村と連携をしながら進めていくことが重要かなと思う。
・もう一つは、特に富山市中心部というところを見ると、まちづくりや拠点性といった観点の考慮も必要になってくるのかなと思う。機能配置とかを考えていく上では、恐らく他の委員会や富山経済同友会でもエリアマネジメントの観点で提言を過去にしているので、エリアマネジメント的な視点も加えながら、機能配置、最適配置、そういったものを考えていく必要があると思った。

事務局
・一点目の官官連携についてはご意見いただいたとおりであり、藤井市長にも委員として来ていただいているが、富山市の担当部局とも今回やろうとしていることの趣旨をしっかり説明した上で、一緒に同じベクト

ルで検討することを投げかけていきたいと思っている。あと民間の施設もあるので、同様にしっかり説明して県民のためにという目線で検討していければと思っている。
・二点目のエリアマネジメントというご指摘を聞いて、本当にその通りだなと思っている。単なる施設ではなくて、そのエリアの中核となっている面もあると思うので、施設を訪問する際にその施設が日頃どういう風に感じておられ、運営されているのかというところも含め、コミュニケーションを取りながら検討を進めていきたいと思っている。

藤井委員
・まちづくりをやっている当事者であるのでリアルの話をすると少しよどんでしまうかもしれないので、夢のある話をしたいと思う。県が今回文化ホールについて資料を示され、基礎自治体と問題を共有して計画を今後立てて実行していくということは、県にとっても市町村にとっても非常に幸せなことだと思っている。
・ものすごく管理コストがかかるし、また先ほどから人材育成という話もあったが、ホールや劇場運営をしていくにはノウハウを持った専門人材が必要である。こういうことも含めてホールを集約していくということは意義のあることだと思っている。その基礎となるのは人口減少ということで、これも全くその通りだなと思っている。
・気をつけなければならないのは、文化や芸術のないところに人は集まらないので、ホールというのは街の潤いだとか、街の賑わいだとか、まちづくりにおいて非常に大切な装置なので、エリマネの話もあったが、そういう中でどういうところにどういうものを配置していくのか、ということをしっかりと議論の中に織り込んで、まちづくりに関わることなので基礎自治体との共通認識を持っていただければ良いなと思う。
・その上でメリハリをつけたホールの選定だとか、計画を立てていくということは非常に大事になってくると思っている。例えば、オーバードホールのような装置がないと、国際的なオペラというのはなかなか上映できない。あるいは著名なアーティストやシンガーを呼ぼうとすると、やはり 2,500 席とか 2,000 席では呼べないということが始まるので、大きなものと中くらいのものと、市民や県民がいろいろな発表をする、あるいは集っていろいろな催しをする、650 席ぐらいの中ホール規模の施設、こういったものを含めてどんな目的でどんな規模のものをどう適正配置していくか、という視点も県の方から言われている通り非常に大事だと思うので、特に基礎自治体の意見だとか、県とのコミュニケーションを十分図りながら進めていければ、夢のあるホールがたくさんできていくのではないか、と思う。
・新しいものができる前提はスクラップアンドビルドなので潰さなければダメだが、非常に歓迎している。

事務局
・専門人材のお話もあったが、各施設を訪問させていただく際に、人材面のことや、どんな悩みをお互い抱えているかというようなこともお聞きしながら考えていきたいと思っている。

藤井委員
・日進月歩よりももっと速いスピードで AI も入ってきているが、音響も照明も PA もすごく進んできていて、お金もかかる世界でもあるので是非進めていただければと思う。

大西委員
・今程藤井委員から夢のある話をということでのお話だったので、是非県内だけというよりも、県外や国外からも富山に来てもらえるような、そういうホールを作るという夢が現実になると良いなと思いながら聞いていた。
・私は福祉の分野で働いていることから、考慮する指標については、障害がある方でも誰でも、先ほど舟橋委員からは車が運転できない子どもの視点でのお話だったが、高齢者や障害がある方とかも参加できて文化的にいろいろな音楽や演劇を楽しんで豊かさを享受できるという、そういった配慮も指標にあれば良いなと思う。その中にはアクセスしやすいというところもあると思うし、中の設備がユニバーサルデザインであるとか、中の職員が障害のある方の受け入れのノウハウがあるとか、そういうようなことも考慮していただければと思って聞いていた。よろしくお願いします。

事務局
・国外からのアーティストの招へいについて、オーバードホールのように大きいところはトップクラスの受け皿となっているし、一方で小さめのところは市民・県民の皆さんの日頃の発表会的なものに使われており、その施設によっての特徴というか、役割分担的なところもあるのではないかと思っている。そういった

ところも浮き彫りに、見える化できれば良いなと思っている。
・また、インクルーシブ的な誰でもというご意見について、大変ありがたいと思う。アクセスのしやすさとか、各ホールでそれぞれ障害がある方も参加しやすいような企画イベントもやっているので、そういうような状況なども、可能な限りヒアリングしながら検討を進めていきたいと思っている。

東出委員
・オール富山で最適配置っていうところで、まさしくこれから中長期的にメンテナンスコストのことも踏まえながら考えていくべきことだと思う。最適配置していく中で、今皆さんからお話があった通り、やはりまちづくりなのだと思う。この富山がいかに魅力的で多くの人が訪れてくれて、ここに住む私たちがどれだけ豊かになっていけるかということを念頭に置きながらの最適配置ということなのかなと思った。
・やはり市と県と、特にこの富山市中心部には本当に素晴らしい施設がいっぱいある。例えば県美術館とか、資料にはないが環水公園とか。あと、城址公園やガラス美術館といった、県と市が持っているものをコラボしていくというか、そこをどうやって合わせて価値を高めていくかも踏まえながら、配置だけでなくもっと豊かになっていく方向性、先ほどから夢のある話とあった通り、文化は本当に人生を豊かにすると思うので、そういう視点が大事ではないかと思った。

事務局
・データで数値化できる部分と、県民のウェルビーイングにつながるような、そういう定性的な指標も押さえつつ検討を進めていきたいと思っている。

小川委員
・先ほどの資料では片仮名ばっかりで、デジタル化とかAIとか、これから必要なことだと思うが、私のようなアナログ県民もたくさんいると思うので、そういう県民にも親切で住みやすい行政に進めていっていただけたら大変ありがたいと思う。

米井委員
・上市町出身なので、市町村に一個ずつしかないホールをこれからどうしていくのかというのも、まちづくりの観点から注目していかなければいけないと思った。
・特に資料３の５ページ目で三つの柱が示されているが、上市町であれば北アルプス文化センターが唯一の文化系列に親しむ機会として使われている。それを富山市に一極集中させて、利用者みんながバスとかで移動してやってね、という風になっていくと、だんだんお金の面だとか、人手の面だとかの話になっていき県東部・西部で富山市中心部から離れたところに住んでいる子どもたちが機会を少しずつ失ってしまうのではないかということを心配している。富山市と県と各市町村、それぞれ管轄が違うと思うので、しっかりコラボして連携し合って、どこにどんな機能を持つ施設を作っていくのか、ということを今後話し合っていただければと思った。
・富山市の施設について、私もあまり使ったことがないような施設がたくさんあるなと思って見ていたが、おそらく決め方がすごく難しいとは思うが、橋梁の話と同じで周辺の住民の方にどうやって納得していただけるか、施設にすごく思い入れがある方もいると思うので、スクラップアンドビルドの判断、取り壊しなり休止なりの判断をどうして行ったのかということをしっかり伝えていく状況というのも同時に作っていけば、納得感の高い新しい富山のまちづくりになるのではないか、と思う。

井領委員
・私からは先ほども言った通り、データ収集が全てではないかと思う。多分、これまでは稼働状況だったり、施設予約状況や来場者みたいなものが県と市でデータベースが違う場合、集計し直したりとか、紙の予約台帳でチケットや切符の数を数えなければいけないとか、集計方法がバラバラだった場合どうしようもなかったのだが、今は写真情報があればAIが集計してくれたり、同一で正規化して整理してくれるようになったので、紙の来場者管理だったりしても諦めずにデータ収集できるので、とにかくデータを集める。それで行ける部分まで行けると思っている。まずは合理的な判断が、人間ができないようなレベルでできるので、しっかりとやっていくというところが大事かなと思っている。
・もう一つは先ほどの話にもあったが、コンセプトがかぶっている部分があると思う。例えばホールはあるが、貸し会議室もやっているみたいな感じのものがまばらになっていたとすると、思い入れのある部分とそうではない非合理性ってあると思う。両方にあまり稼働してない会議室があるのであれば、こちらの施設は

貸し会議室やイベントに特化する。もう一方の施設は芸術文化特化であるという風にしていって、集約や統合、あるいはそこにある備品や美術品等の移動を伴えば文化的なコンセプトを損なわず整理することはできると思う。
・そこにメスを入れるロジックがなかっただけだと思うので、空撮写真からや距離等から、同じような鉄道路線の次の駅だから交通移動的には問題なく行けるということであったりとか、住宅街とか住民の多いエリアなので貸し会議室とか、お花教室のために、いわゆる教室や貸し会議室はこっちに整理しようという風にロジカルに判断できるはずなので、一にも二にもデータを収集した上で、いわゆる文化的なものを損なわない統廃合というものの可能性を前向きに探っていけば良いと思っている。
・繰り返しになるが、データの形を問わない時代が来たので、紙でやっていた来場者管理とか手書きの入場者管理表なんかも役に立つので、どんどん集めていきましょう。

事務局
・米井委員からのご意見について、今回、まずは富山市の中心部で検討を進め、ものになれば、それを他のエリアに横展開を図っていければと考えている。うまく見える化できれば良いなと、少し願望を込めて今取り組もうとしているところである。
・井領委員から根気強くデータを集めるというご意見をいただいて心強く思っている。県庁のデジタル推進の部局とも連携し得られたデータを確認しながら進めるということで、各施設からデータを得るということも注力していきたいと思う。
・あと、施設同士のコンセプトの重複とかあると思う。各施設にヒアリングする中で、改めてどういうコンセプトで運営しているかを聞きながら整理し、県民の皆さんにお示しできるようなことを探っていきたいと思っている。

辻座長
・井領委員もご指摘されていたが、探してみると予想以上にデータが出てくるという時代になっており、論文を書く際もデータがないと思って PC で調べると出てくるというのが私の分野でもあった。こんな戦前の古いデータまであるのかと思ったら、実はそれは勝手に AI が作った情報だったということがあった。数値をなるべく集めることが大事であると同時に、丁寧にアナログの状況と比較しながら、より精度を上げていくということが重要になってきているのではないかと改めて思う。
・まさに本日のテーマの文化ホールなんかを考えると、やはり利用実態をどのぐらい正確に理解できるか、数値で整えられるものは数値で整え、生の情報として分かるところは生の情報で公開していくということが重要である。本日の報告を見ると、やはり富山市の中心部に県施設、市施設、民間施設が集中しているので、ここを初期のモデルケースとして、藤井委員が強調していたがスクラップアンドビルドを忘れずに夢を叶えていくということがデータ的にどこまで迫ることができるのか、という検討を県を中心にしながら、市民も民間の人にも協力いただいて、是非進めていっていただきたいなと思う次第である。
・最後に、新田知事からコメントをいただきたい。

**３．知事コメント**
・議題１の前段の説明の中で、８月末の記録的な大雨に際して氷見市で大きな被害が出たこと、これは大変に不幸なことであったが、そこに設置していたサテライトデスクでの相談体制や ADST（農業農村連携応援体制）の枠組みでの支援が大きくワークした。災害対応という残念な局面ではあったが、この検討会での議論から生まれたものが一つの成果を出したということで、そういう意味ではうまくいったなと考えている。
・後段では厚生業務 DX の取組みを紹介したが、多岐にわたる業務があって、なかなか手ごわい仕事ではあるが、まさにこれもデータを収集し、できるところからやっていくものなのかなと考えている。
・そして議題２で新たに文化ホールの話題を提供したところである。現在、県民文化計画を策定中であり、これを言わば縦糸にして、県や市、経済同友会でも取組んできたエリアマネジメントを横糸にして、より良いホールの配置のあり方や、築年数とかそれぞれの施設ごとにいろいろあるので、そういったことも考慮しながら、やはりウェルビーイングを上げるための夢を持った、そんなマネジメントをしていきたいと思う。
・警察の再編はほぼ目処がついている。また、県立高校の再構築にも取り組んでいるところである。文化ホールについても着実に取組みを進めていきたいと考えている。
・本当にこれからもいろいろなテーマが出てくるので、引き続き辻座長をはじめ委員の皆さんにはお力を貸していただきたい。

（了）